

わっくわくコンサート～癒しの夕べ

会場には23人が集まりました
真夏の夜の音楽を堪能しました



ピアノと歌…川原一紗さん



各種民族楽器…藤川潤司さん
写真はリシエリドゥウ&シエンバ



8月4日、当法人では初めてのコンサートをわっくわく食堂で開催しました。出演したのは全国で音楽活動を展開する夫婦ユニット「川原一紗◎藤川潤司」のお二人で、ピアノと世界の民族楽器のハーモニーが魅力的です。

演奏はアンコールも含めて13曲。みんなで民族楽器を体験し演奏するコーナーもあり、誰もが知っている「ふるさと」の曲では観衆も一体になって歌いました。聴きにきた方からは「澄んだ歌声がとても良いですね」「民族楽器を初めて持った」「また聴いてみたい」などの声がありました。

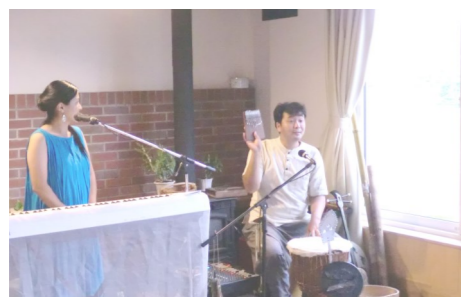
真夏の暑さを忘れさせてくれる歌声に包まれたこの日の「わっくわく」でした。

演奏したおもな楽曲

- ・アメイジンググレイス…ゴスペルの定番曲
- ・海空（みそら）…オリジナル曲。民族楽器との融合で雄大な海をイメージ
- ・念ずれば花ひらく…オリジナル曲。三線と歌声、感動的な歌詞が心をゆさぶる

ほか

藤川さんが持っているのは、指で弦をはじいて演奏する「カリンバ」



精神科医 土田正一郎の

診察室で考えていること(仮)



その40 前例がない

私は前例が嫌いである。どうでもいい仕事や嫌々ながら仕方なくやっていることには、前例を求めたりすることもあるが、その中にもどうかして前例のないことを探したりするのは、人生の楽しみの一つである。

困みに人生の楽しみは1つしかない。
そもそも前例は目障りであったりする。自由な思考の妨げになることはあっても、犬の餌にすらならない。前例のないことの前に立つとメラメラと闘志が湧いてくるが、時代が進むと必然的に前例が増えてきて、前例のないことを探す苦勞が増す。バージョンアップは次善の策である。それで我慢するか、と言い聞かせる。 ともに顧問(自称)

各事業報告～7月末現在

- ◆障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 契約/移行2人、継続B22人 見学/10人 体験/0人
- ◆グループホームよろこび 利用者/21人(定員22人) 見学/3人、体験/0人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人89人
- ◆寄付物品 牛乳パック
- ◆今年度寄付金 のべ9人 170,000円

編集後記

海水浴&温泉で「海は初めて」という利用者の一人は砂浜の感触を楽しんだり、貝殻を見つけたりして楽しそうでした。それを見て私は、何らかの理由で海に行けない人、海水に触れられない人がいる、こういった経験の機会はととても貴重なことだと思いました。(かわさき)

通信 ともに

第51号



2017年8月18日発行

発行者/認定NPO法人ともに
 住所 〒044-0053 虻田郡倶知安町北3条西2丁目
 でんわ (0136) 55-5828
 FAX (0136) 55-5829
 Eメール info@npo-tomoni.com
 公式ホームページ http://www.npo-tomoni.com
 公式ブログ http://blog.canpan.info/npotomoni/

今月の一枚



豊浦海水浴場 砂浜を背にして

海水浴&温泉のもようは3ページに掲載しています

厚生労働省北海道厚生局 わっくわく交付金実態調査で来所



当法人の「ともに創る地域の和 わっくわく」は国から、平成25年度「地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金」として3,000万円の交付を受け建設しました。その交付金が有効に使われているか施設の利用状況の実態調査のために7月11日北海道厚生局健康福祉部長が2人の職員と来町され、町からは福祉課長ほか職員3人の同行で来所されました。

こちらで作成した資料をもとに理事長から説明を行った後わっくわく内全体を視察。カフェにお客さんがいたこともあり、交付金整備施設がどう地域活性化に利用されているのか興味深く見入っていました。また、ワークショップようてい利用者の就職実績や倶知安の地域課題についての質問が相次ぎました。視察終了の際「経営をしっかりとてますね」とお褒めの言葉をいただき、日ごろの運営の工夫が評価されたようで安心しました。

わっくわくが完成して2年あまりですが、これからも障がい者の自立と地域活性化に貢献できるよう活動を工夫し進めなくては、と気持ちを新たにしました。(こばやし)



第2回わっくわくまつり 9月23日開催



昨年初開催で大好評だった「わっくわくまつり」を、今年も9月23日土曜日（秋分の日）に行います。町内会「第一親和会」さまの協力をいただき、地域に密着したお祭りにしていきます。おまつりの情報は随時通信ともやブログなどで公開していきます。また今月号内にチラシを入れていますのでご覧ください。当日みなさまのご来場をお待ちしています！



じゃんけん大会

フリーマーケット*2



抽選会 場内でお買い物された方に抽選券をお渡しします



障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 製造部 札幌地下歩行空間に出店

9月に札幌地下歩行空間で開催される「手づくり雑貨&雑貨マルシェhand to heart」に、ワークショップようていの製造部が出店します。「うつりゆくいろ」をテーマに日本の秋を印象づける赤や黄などの紅葉をイメージした商品が並びます。製造部では長財布、がま口バッグ、ばね口ポーチなどを販売する予定です。倶知安町外の方も、この機会にぜひ会場にお越しください。



hand to heart vol.33
とき 9月7日・8日 午前11時～午後7時
(ワークショップようていの出店は7日のみです)
ところ 札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場
(札幌市中央区北3条西4丁目 地下通路)
地下鉄さっぽろ駅より徒歩3分

農業部 初栽培のキタカムイ まもなく出荷



農業部のじゃがいも、キタカムイは今月中に収穫がはじまり、出荷を始める予定です。

キタカムイは1997年に「イエローシャーク」と「とうや」を交配させた品種で、2007年に道から優良品種に認定されました。煮崩れしにくく甘みがあるのが特徴です。

春から利用者、職員が試行錯誤で取り組み、苦勞の未完成した農薬不使用のワークショップようてい産キタカムイをぜひご注文いただき、ご賞味ください。なお、さやあかねはもう少し後の収穫になります。

障がい者就労支援事業所
ワークショップようてい

利用者企画 海水浴&温泉旅行

昨年に続き、利用者自身が企画、運営した豊浦町への海水浴&温泉旅行を7月22日に実施しました。

今回は参加者が利用者、職員含めて18人と例年になく多くなり、急きょバスを手配しました。当日来たのはなんと大型の観光バス！ 快適な旅行を楽しめました。

写真右下で力泳しているのは前回第50号の通信ともにて「今月の一枚」を提供したKさんです。毎年海水浴で泳ぐのを楽しみにしていて、今年もダイナミックな泳ぎを披露しました。

「去年は寒くて海も冷たかったけれど、今年は温かくて泳ぎやすかった」と終わったあとと嬉しそうに語っていました。

また後志の海浴いで生まれた利用者の方は、「コンブのにおいが懐かしい」と故郷に思いをはせていました。

実行委員のみなさんは2か月も前から準備をし、当日も運営に走り回っていました。それぞれが思い出を持つことができた今回の海水浴でした。



前日に大雨が降って心配しましたが、当日はごらんのような晴天に恵まれました。



実行委員の感想

- ・去年は寒くて冷たい海だったけど、今年は海水が程よい水温だったのが良かったです。(Hさん)
- ・参加者がバスに乗っているか数を数えるのが大変でしたが、天気が良くて自分も楽しめました。(Mさん)
- ・海に入れなかったのは残念ですが、散歩していて良い景色が観られたのが良い経験でした。(Iさん)

グループホーム よろこび ちば職員の入院回顧録 その1

「忘れるということ」
入院という非日常の中で天井を見つめながら考えた。60数年の月日の記憶の中では憶えなければならないことは多数あった。その時に憶えたことが今は必要なのかと考えた。そして記憶の断捨離をしたい、と思った。
入院という空間では新たに記憶することは特にない。沈んでいた「思い出」という記憶が浮かび上がってきた。思っていた以上に詳細を思い出す。それが正しいのか間違っているのかはどうでもよい。「思い出」という記憶だけは残したい。それはきっと捨てられない記憶なんだろう。記憶の「断捨離」はできないということに気付いた。(ちば)

